

6回にわたり、脳神経内科についてお伝えしてきましたが今回で最後になりました。まとめとして脳神経内科医が取り扱う症状を解説します。

例えば頭痛ですが、意識障害があれば脳神経外科を直接受診するべきですが、いわゆる頭痛もちの方が予防したい場合には脳神経内科を受診して下さい。代表的な脳神経内科の症状としては、しびれ、めまい、ふるえ、力が入らない(筋力低下)、もの忘れ、けいれん、反応が悪い(意識障害)などが挙げられます。これらの症状を自覚したり、誰かが訴えている場合には、脳神経内科の受診を検討して下さい。ただの「しびれ」を紹

介いたします。広辞苑で「しびれ」を引くと、①体の一部または全体の感覚を失って運動の自由を失うこと、②激しく興奮しうっとりすること、③電気などに触れて体がびりびりとふるえるように感ずること、と解説されています。一方、医学辞書では、感覚過敏や異常感覚、感覚鈍麻、時に運動障害(力が入らない状態)をも意味する日本語

いわて医療通信【超高齢化社会を支えるお仕事】



# 6.こんな症状は脳神経内科へ

場合にも用いられることが多い、と出てきます。つまり、「しびれ」とは感覚障害を意味します

が、感情表現や運動麻痺を指す言葉として用いられている場合もあるのです。

ちなみに感

の症状があり、脳

神経のどこが障害

されるかによっ

て違います。異常感覚、錯

感覚、知覚過敏、知覚鈍麻、

無感覚などで、原因は末梢

神経障害が過半数ですが、

脊髄や脳幹あるいは大脳の

障害も一定数あります。病

気ではない場合もあり、代

表的な症状として肘を何か

にぶつけた際の電気が走る

ようなしびれや正座を崩し

た後にビリビリするような

しびれです。

これら全てが「しびれ」

の一言に込められているた

め、診断は混乱を極める場

合もあります。しかしなが

ら、私たち脳神経内科医は

こうした背景をよく心得た

診療を行っているため、患

者さんの話をよく聞いて、

そのいわんとするところを

確実に把握することが得意

なのです。

脳神経内科のお仕事を6

回シリーズで紹介してき

ました。私たちが取り組ん

でいる診療や研究に関心を

持っていたくださりかけに

なってくれたらと願ってい

ます。最後までお付き合い

いただきありがとうございます。

岩手医科大学

脳神経内科・老年科

前田哲也

内丸メディカルセンターは、紹介状の有無に関わらず受診が可能です。